

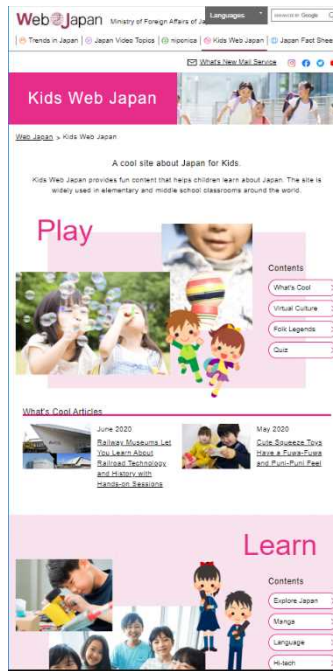
「Web Japan」 5つの主要サブサイト

1. Trends in Japan



概要:最新の日本事情(ファッション、科学技術、ライフスタイル、ポップカルチャー、フード&トラベル)の紹介。
言語:5言語(英、仏、西、中、ア)

2. Kids Web Japan



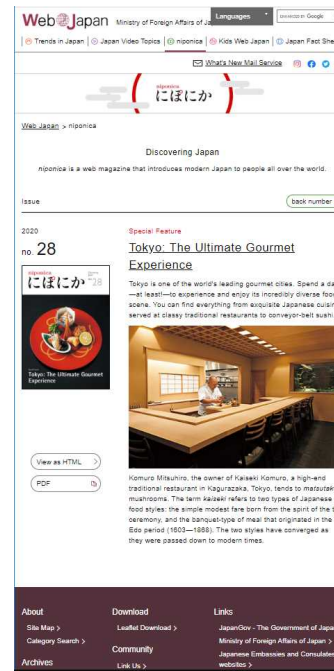
概要:海外の若年層(小中学生)に我が国を紹介する。日本語学習者のために日本語版も有り。
言語:6言語(英・仏・西・中・ア、日)

3. Japan Video Topics



概要:日本紹介短編動画集(世界100局以上のテレビ局でテレビ放映も実施)。
言語:7言語(英・仏・西・中・ア・葡・日)

4. Niponica



概要:年2回発行する日本紹介雑誌「にぽにか」のWeb版。PDF形式でも掲載しているので印刷配布も便利。
言語:7言語(英・仏・西・中・ア・露・日)

5. Japan Fact Sheet



概要:日本の政治、経済、社会、文化等46項目について百科辞典的に紹介。PDF形式なので印刷配布可能。
言語:5言語(英・仏・西・中・韓)

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

【令和4年度予算額: 4,303百万円の内数】

「戦略的対外発信の強化」の必要性の高まり

その一環として、主要国において**対外発信拠点**が必要。



「**ジャパン・ハウス**」をサンパウロ、ロンドン及びロサンゼルスに設置。

ジャパン・ハウスの機能



講演、セミナー等



展示



書籍、ウェブ等



物販



レストラン

ジャパン・ハウスの3つの工夫

公的機関の機能を集約し、日本に関する様々な情報がまとめて入手できる**ワンストップ・サービス**の提供。

カフェ・レストラン、ショップなどの商業スペースを設けるとともに、民間の活力、地方の魅力なども積極的に活用した**オールジャパンでの発信**。

専門家の知見を活用しつつ、**現地のニーズ**にきめ細かく対応し、現地の人々の共感を呼ぶよう工夫した発信。



日本の多様な魅力、正しい姿を含む政策・取組の発信を通し、これまで必ずしも日本に関心がなかった人々を含む幅広い層を惹きつけた上で、**親日派・知日派の裾野を一層拡大**させていく。

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

- 令和2年3月から3拠点とも新型コロナウイルス感染症対策のため休館・一時休館を繰り返し、再開館時も開館時間の制限や入場者数制限など種々の制約の下での運用を余儀なくされた。(令和2年度の休館割合は、サンパウロ8割、ロンドン8割、ロサンゼルス10割)
- 令和3年5月1日以降は、制限つきではあるが、3館とも開館している。
- コロナ禍においては、オンライン発信を強化し、リアルとのハイブリッドを駆使。

サンパウロ

平成29年 4月開館



ショッピングモールや美術館等が立ち並ぶ、サンパウロ中心のパウリスタ通りに平成29年4月30日開館。令和2年2月に来館者200万人を達成。令和4年3月末時点で来館者数は約242万人。パウリスタ通りの主要文化施設として定着している。

ロンドン

平成30年 6月開館



多くの店舗が建ち並ぶ繁華街であるケンジントン地区に所在。平成30年6月21日に開館。同年9月の開館記念行事には英国王室からケンブリッジ公爵殿下、我が国から麻生副総理が出席。令和4年3月末時点の来館者数は約115万人。

ロサンゼルス

平成30年 8月開館
(平成29年12月部分開館)



アカデミー賞授賞式会場のドルビー・シアター等が入居するハリウッド中心地の施設に所在。平成29年12月20日にギャラリーやショップがある2階部分を先行開館。平成30年8月24日、5階を含む全館が開館。令和4年3月末時点の来館者数は約46.7万人。

在外公館文化事業

【令和4年度予算額:199百万円の内数】

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として主催(共催)する日本文化紹介事業。日本伝統文化(茶道、華道、書道、折り紙等)のレクチャー・デモンストレーションやワークショップ、日本映画上映会、邦楽公演(和太鼓、三味線等)、武道のレクデモ、日本語弁論大会等を企画・実施。近年は、アニメ・マンガ等のポップカルチャー紹介や和食のPR等も積極的に奨励。



平原綾香氏によるコンサート



書道レクチャー&デモンストレーション



日本パビリオン

ミャンマー「ジャパン・ミャンマー・プエドー 2020における日本文化紹介」 (令和2年2月)

- ヤンゴンにおいて、平原綾香氏によるコンサート、各種日本文化体験、日本企業によるブース出展等を実施。ヤンゴン地域政府首相等、約13,000人が参加。
- アウン・サン・スー・チー国家最高顧問のビデオメッセージが上映された他、ステージ公演の様相を現地テレビ局が生中継。
- 本イベントをオールジャパンで盛り上げるにより、ミャンマーにおける日本文化最大のプラットフォームとして定着。

中南米9公館 「書で中南米スペイン語圏をつなぐ」 (令和4年1~2月)

- 中南米スペイン語圏に所在する9公館の連携による横断型オンライン事業を開催。
- 公館所在地以外のアジア、ヨーロッパ、アフリカ等、計40か国・地域からも参加申し込みがあり、29か国から参加があった。
- 地理的制約を受けないオンラインの特徴を活かし、国境を越えた対日理解促進、一体感の醸成ができた。

コルカタ(インド) 「国際文芸祭における 日本パビリオンでの日本紹介事業」 (令和4年2~3月)

- 大型国際文芸祭に日本パビリオンを出展。各種日本文化関連プログラムを実施し、日本文化を複合的、集中的に紹介した。来場者数はのべ70,000人に上った。
- 多くの一般市民が来場、中でも10代から20代の若者が多く、今後を担う世代へ日本及び日本文化に関する効果的な宣伝ができた。

国際交流基金事業(運営費交付金)

【令和4年度予算額:12,625百万円の内数】

組織概要・目的

国際文化交流を担う専門機関として、外交政策を踏まえつつ、海外における文化芸術交流、日本語教育、日本研究・国際対話に資する事業を実施し、対日理解を促進しつつ、国際社会における我が国の地位を向上させることを目指す。



ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展



コスタリカにおける日本語能力試験実施後の関係者



リスボンにおける欧州日本研究協会

事業分野

□ 文化芸術交流

舞台公演・美術展・日本映画上映会等の実施又は支援、人物交流、情報発信等

豊かで多様な日本の文化や芸術を様々な形で世界各地に向けて発信。文化芸術を通じて日本のこころを世界の人々に伝え、言葉を越えた共感の場を創り出し、また、共に創造する喜びを分かち合っ、人と人との交流を深める。

□ 海外における日本語教育

日本語専門家の海外派遣、日本語教育機関等への助成、海外の日本語教師育成、日本語能力試験の実施、日本語教材の開発・制作等

より多くの人々に日本語を学ぶ機会が与えられるように、そして、日本語学習を長く継続できるように、日本語を学びやすく、教えやすいものとするため、日本語教育の基盤や環境の整備を行う。また、各国・地域の政府や自治体、教育機関等と連携して、それぞれの教育環境、教育政策、学習者の目的や関心に十分に対応した事業を実施(アニメ・マンガや日本文化等を題材にしたe-ラーニングにも対応)。

□ 日本研究・国際対話

海外日本研究者へのフェローシップ供与、高等教育・研究機関への助成、対日理解の促進、人材育成支援

日本研究や対日交流の中心的な役割を担う人材を育てるための取組として、以下の事業に取り組む。

海外での日本研究を支援し、その振興を図ることで、世界の各国で人々により日本が深く理解されることを目指す。

国際的な重要課題について、日本と海外の人々の間で対話する人的ネットワークを形成し、日本の対外発信を強化すると共に、対日理解の促進及び対日関心の強化に取り組む。